

令和3年度第3回世田谷区放課後児童健全育成事業の運営方針検討委員会 会議録（要旨）

- 【開催日時】 令和4年2月10日（木）18：30～20：00
- 【開催場所】 世田谷区役所第1庁舎4階 141会議室
※西郷委員長、植木副委員長、千葉委員、新海委員、宮川委員はオンラインによる参加
- 【出席委員】 西郷委員長（学識経験者）、植木副委員長（学識経験者）、千葉委員（学童保育クラブ父母会連絡会）、新海委員（青少年委員会）、清水委員（山野児童館）、塚原委員（野沢児童館）、白石委員（松沢小新BOP）、宮川委員（障害保健福祉課長）
※オブザーバーで児童館長、株式会社ベネッセスタイルケア 田端さん、社会福祉法人共生会 SHOWA 角田さんが参加
- 【事務局】 子ども・若者部長、子ども・若者部子ども育成推進課、子ども・若者部児童課、教育委員会事務局生涯学習部長、教育委員会事務局生涯学習部生涯学習・地域学校連携課長
- 【当日配布資料】
- ・ 次第
 - ・ 資料1：放課後児童健全育成事業の運営方針（イメージ）
 - ・ 資料2：児童アンケート（案）
 - ・ 資料3-1：保護者アンケート（案）
 - ・ 資料3-2：保護者あて通知
 - ・ 資料4：BOP、児童館、プレーパーク、青少年交流センター利用児童向けアンケート（案）及びヒアリング（案）
 - ・ 参考資料：新BOP学童クラブの退会理由集計

1 開会

事務局： ただ今より、令和3年度第3回世田谷区放課後児童健全育成事業の運営方針検討委員会を開会する。本日も、世田谷区内で民間学童クラブを運営されている「社会福祉法人 共生会 SHOWA」と「株式会社ベネッセスタイルケア」の方にオブザーバーとしてZoom参加していただいている。

2 資料確認

3 内容

委員長： 本日は、雪の影響により限られた時間の中で、放課後児童健全育成事業の運営方針の骨格と児童及び保護者へのアンケート内容に関して、委員の皆様からご意見を頂戴したい。それでは、事務局に次第の（1）子どもを中心とした「世田谷区放課後児童健全育成事業の運営方針」について、資料の説明をお願いしたい。

事務局： 資料1「世田谷区放課後児童健全育成事業の運営方針 イメージ」から説明をする。網掛けにしている箇所は、前回の検討委員会やメール等で、委員

の皆様からいただいたご意見を踏まえて、修正した箇所である。

1 ページ目の理念について、子どもが見ても、理解できるようなものがよいのではとの意見をいただき反映してみた。また、子どもだけではなく、大人が見ても、理解しやすいようにとのご意見もいただいているので、本日のご意見を踏まえ修正していきたい。2 ページ目では、理念のための根拠説明が権利条約の条文のどの部分に該当しているのか記載した。また、同ページの「2 策定の方向性」や第1章に「基本原則」や「目標」が必要とのご意見もいただき記載している。その他のページでも網掛けで修正している箇所があるので、委員の皆様にご確認していただき、ご意見を頂戴したい。

委員長： それでは、皆様からご意見を頂戴したい。また、児童館長の皆様にも今回の検討委員会から参加していただいているので、ご意見があれば、是非頂戴したい。

副委員長： 1 ページ目、理念について、子どもの目線に立っており、誰が見ても理解できるように工夫されていて非常に良い。子どもの目線で、運営方針を作成していることの発信にもつながる。一つ事務局に確認したいことがあり、3 ページ目、総則（2）②生活指導と記載されているが、生活支援ではないか。

事務局： 生活指導ではなく、生活支援に修正をする。

委員： 1 ページ目は良いアイデアだと思う。理念③におうちにはやくかえりたいなどと記載されているが、学童クラブにいたくないと理解される可能性があるため、記載しなくていいのではないか。4 ページ目、1. 世田谷区放課後児童健全育成事業における基本原則の目標について、(3)の記載の順番を(1)もしくは(2)に変更したほうがいいのではないか。行きたいと思える場所のほうが大事なのではないか。

委員： 1 ページ目、文字数が多く感じる。イラストのカモが話す文字数が多く、学童クラブでできることを多く書きすぎていると感じた。より簡潔に記載したほうがいい。理念③の4つのことが矛盾している。④の表現は、民間活用を意識されているのだと思うが、新BOP学童クラブに残る児童もいるため、見直したほうがよいのでは。

委員： 遊びや楽しさが全面に出てきてほしい。子どもたちの過ごし方として、活動的な遊びの楽しさの部分だけでなく、穏やかな人との関係の中でゆっくり過ごす楽しさの部分も含めて、伝えられるような表現を記載したい。1 ページ目、理念④の表現は、民間活力の活用だけではなく、自分で選んで公園、児童館などに行く自立支援も含んだ意味となるようにできればと考える。

委員長： 新BOPから外に遊びに行けてもいいのではないか。人数が多いので難しいとは思いますが、知恵を使いながら方法を考えてほしい。

- 委員： 子どもの目線に立った理念は非常に良いと思うが、世田谷区子ども条例のように、子どもバージョンと大人バージョンの両方作成するのはどうか。また理念③、④、⑤の表現の仕方に工夫が必要だと感じた。現場の職員は、運営方針について興味をもっているため、本日は館長も傍聴出来ているが、現場の職員とも作成する過程を共有しながら進めていければと考える。
- 委員長： 子ども版、大人版はいいと思う。
- 委員： 子どもや大人の視点に立って作成できており、新BOP職員に4ページ目の基本原則を特に浸透させる必要があると感じた。
- 委員長： これからは、児童館長や現場の職員の方々にもっとご意見を伺えるような機会があるとよい。現場の職員が一番現状をわかっている。
- 委員： 1ページ目、理念の冒頭部分は、民間事業者も含めて運営主体やスタッフに学童クラブの目指す姿が伝わるよう簡潔に述べるほうがいいのではないか。例えば、子どもが自分で考え、自分で遊び、自分で学んでいく場所にしていくなど、そういったことを示していくのではないか。子どもの視点の9項目はよいと思う。
- 各章の内容についても少し見直した方がいい。第4章の「子育て支援」はテーマが大きすぎるので、保護者支援と地域連携について書くのはどうか。第5章では職員資質や事業のレベルアップについて書くのはどうか。「策定の方向性」にはインクルーシブの考え方を入れたほうがよいと考える。また、育成支援や成育支援という用語の使い方は、理念を整理する中で統一したほうがよい。
- 委員長： 理念は子どもに向けて話すと、大人の自覚がでてくる。子ども版は必要。大人は大人の言葉できちん作っていくことが大切である。網掛けの部分に関しては、事務局により、検討委員会で出た意見をよく反映している。理念などの位置の問題も検討が必要。
- 育成支援や成育支援など用語を決める必要がある。育成支援は、厚生労働省の正当な用語として使われているが“大人が育成をし、支援する”ことであり、主語が大人になる。子どもの権利条約では、子どもの能動的な権利を強く主張しているため、子どもの能動性を位置づけられるような言葉にしたほうが良い。
- 1ページ目の理念と4ページ目の基本原則の目標では同じく場を示している重複している箇所があるので、整理をする必要がある。
- 特に追記すべきことが2つある。1つ目は運営主体について、2つ目は子ども支援についてである。子ども支援では、4章に子ども支援強化と記載しているが、4章の主な内容は親への支援、学校・地域で協働した支援についてである。子ども自身についての支援もとても大事で、各新BOPでは子どもの相談援助等を行っているため、子ども支援について新たに章を追加し明文化したほうがよい。

- 委員長： それでは、次第（２）の学童クラブ登録児童及び保護者へのアンケート内容の検討についての説明をお願いしたい。
- 事務局： 関連会議の子ども・子育て会議及び新BOP運営委員会で報告し、様々な意見をいただいたので、数件その意見を紹介する。子ども・子育て会議では、例えば、小学生はいじめや不登校や発達障害などの課題が多くあり、インクルーシブな学童クラブが必要。アンケートの中で子どもが自由に発言できることは大切だが、それを実現することが大切。アンケートでは小学生の子どもがおかれている実態把握が必要であり、そういった特性別に放課後の実態や課題を考える必要がある。静かな部屋で勉強や読書となっているが、なにもしないという選択もあるのは。新BOPはどのようなかではなく、みんながどんな放課後にしたいのかを先に考えてほしい。時間延長があったほうがいいのか、ないほうがいいのかだと、あったほうがいいのかという答えになり真のニーズがみえてこない。子どもアンケートでは、学童クラブで誰と遊んでいるか聞いてほしい。学童クラブは異年齢児集団でつくる遊びの場なので、子どもたちの遊び場に対する意識をみることであればよい。保護者アンケートには、民設の学童クラブに期待することを聞いてみたい。保護者アンケートは新BOPを利用していることが前提の質問になっている。放課後における自立への援助は抽象的な質問になっている。など様々なご意見をいただいた。
- 新BOP運営委員会では、例えば、子どもたちのBOPを利用していることは満足しているのではないかと。学童クラブが楽しいか楽しくないかをこの質問で導き出せるのかわかりにくい。などご意見をいただいた。アンケートに反映できるご意見は今後反映していく。
- 委員長： 子ども・子育て会議などで出た意見は改めて委員の皆様と共有してほしい。それでは、アンケートに関して、皆様からご意見を頂戴したい。
- 副委員長： 子どもアンケートは子どもたちが回答しやすい工夫ができています。現場の職員の方々の意見や前回の検討委員会で出た意見が反映されており、非常に良いアンケートとなっている。また、子ども子育て会議等で出た意見についても、必要に応じて反映するとより良くなる。
- 委員： 子どもアンケートは、個人的には時間延長に関して改めて聞くことはナンセンスだと考える。延長モデル事業で結果は出ている。保護者アンケートは、資料3-2は忙しい保護者もいるので、より分かりやすくする工夫が必要である。
- 委員： 資料3-2は情報と文字数が多くて、より簡潔に分かりやすくする必要がある。書いてあることはとても大事なことだと思う。子どもアンケート3番や4番は、回答の選択肢を①すき②きらい③どちらでもないという順番にしたほうが良い。
- 委員： 子どもアンケート2番は、楽しい・楽しくないを選択させるだけでなく、

好きなおもちゃがない、好きな遊びができない以外に一緒に遊びたい友達がいらないという考えがある。カギを持てるようになっていたり、お留守番できるようにしたりして、自分で友達と一緒に過ごせる努力をすることを私たちも応援していきたい。回答の中からそのようなことがひろえるとよい理由を書いてもらうことで、放課後について考えるヒントになればと考える。

委員長： 楽しい・楽しくないの選択理由は、選択肢にするのではなく、自由記述で良いのか。

委員： 選択肢にすると、望む答えを意図してしまう恐れがある。自由記述にして、子どもたちの学年等を踏まえた上で、意見を整理したい。

委員： 子どもアンケートは新BOP職員の意見も踏まえ、子どもに分かりやすいアンケートになっている。千葉委員が指摘していただいた12番は、時間延長の観点だけでなく、自立（子どもは何時になれば自分で帰宅できるかなど）の観点について、聞くことが出来ればと考える。

委員： このアンケートは、大規模化、狭隘化、保護者ニーズの把握など目的に沿ったアンケートになっている。自由記述の部分においては、子どもたちの意見をいかに正確に読み取ることができかが課題だと考える。

委員： 前回の検討委員会で、子どもがアンケートに回答する場合に、子どもの気持ちはその時々で変化しやすいので難しいという意見があった。そこを踏まえると、2番（学童クラブは楽しいですか？）と3番（学童クラブのおやつは好きですか？）はこのような質問の仕方で大丈夫なのか。

事務局： 学童クラブ自体は楽しいことが基本との意見をいただいている。楽しくないと回答した場合に、その理由を指針に反映できればと考え、記載した。

委員長： 先程、子どもアンケート12番で時間延長に関して結論が既に出ているのではないかと仰っていたが、どのような結論が出ているのか。

委員： 以前に時間延長モデル事業を実施した時は、各新BOPで2～3名程で多くて10名程が利用していた。そこまで多い数字ではなかった。子どもに聞くことなのか疑問に思っている。

事務局： 時間延長モデル事業を利用していた人数は、委員の仰っていた人数だったかもしれないが、実際に保護者から時間延長が必要だという意見を頂いている。時間延長が必要かどうかだけを聞くのではなく、実態として時間延長がなくて困ったことがあるかどうかを聞きたいと考えている。子どもの目線からみてどう感じているのか、お留守番をしてでも早く帰りたいのか、保護者がお迎えにくるまで学童クラブにいたいのか聞いてみたいと考えている。

委員長： 今までの皆様からの意見を踏まえ、意見を申し上げる。子ども向けのアンケートで、子ども用語になっているので、子どもは答えやすいと思う。おやつは好きなものができますかと、人気調査になってし

まう。おやつを食べている状況や場の雰囲気も聞いてみたらいいのではないか。子どもに聞く質問項目と大人に聞く質問項目を重複させたほうが良いと考える。子どものニーズと大人のニーズの違いが明らかになり、比較しながら検討することができる。

子どもアンケートでは、数か所見直しが必要である。5番、6番は困ったことや嫌なことは状況によって、話す相手が異なるため、選択肢すべてに該当してしまう可能性がある。例えば、「仲の良い友達はいますか」「職員と仲が良いですか」といった子ども同士の関係、大人との関係を聞く内容にしたほうがよいのではないか。7番は①できる②わからないの回答が多くなることが予想され、回答から運営指針に反映させることが難しい。子どもの意見表明権について聞きたいのであれば、子どもの言葉での表現の見直しが必要である。10番の質問では、本を読む、宿題をする以外にも例を豊富にしたほうが良い。

追加で何点かしたほうが良い質問がある。大人は機会や可能性を用意し、子どもが選ぶ。大人は刺激、きっかけづくりをする。新BOP学童クラブは校庭や体育館を使える強みがあるが、実際に使えているのか。曜日によっては使えない、時間によっては使えないなど、地域が優先的に使われていることもあると聞く。学校内にある学童クラブは、体育館や校庭が使えないと、豊かに遊べなくなる。子どもたちの遊べるスペースが狭くなるほど子どもたちが豊かに遊べなくなるという調査研究がある。また、トイレに関して、綺麗さだけでなく、使いやすいのか質問したほうが良い。

保護者アンケートの冒頭の説明によりよくしていきたいアンケートであると、明記する。なんのためのアンケートなのかを記載した方がよい。放課後過ごす場所に、子ども食堂や学習支援の場やプレーパークなどを追加してはどうか。民間事業者は遅くまで使えると書くと、ネグレクトを疑われるようで選択しにくいのでは。7番、緊急避難場所と記載されているが、駆け込み先にしたほうがよいのではないか。12番自立に向けての援助に満足していますかと記載されているが、満足度の判断基準が難しいため、別の聞き方にしたほうが良い。

子どもと職員、保護者と職員との信頼関係について聞ける質問を入れたほうが良い。

委員：委員長が子どもアンケートの5番、6番の見直しをしたほうが良いという話があったが、自由に話ができる子どもは大丈夫かと思うが、なかなか上手く話ができない子どもが、困った時に新BOP職員が寄り添っていると感じるかどうか把握するために質問を残したほうが良い。

体育館や校庭の使用に関して、各学校によって違いがあると思うが、高学年の授業や地域に貸し出しがあるため、なかなか使用できないという実情がある。

放課後は字の通り“課題から解放された後”であり、学校の間とは違う場所という位置づけができることを、委員の皆様と共有したい。

委員長： 今までの議論をもとにまとめて下さっているので、再検討をお願いしたい。先程説明した研究資料、北区と杉並区を調査した実態調査を送るので、他の委員と共有してほしい。

委員： 子どもアンケート12番で、保護者の帰宅時間がバラバラで、保護者が4時に帰るからその時間に帰りたいと回答する児童もいるかもしれないので、知りたい内容と設問が合うように工夫する必要がある。質問の仕方も、おうちの人より先に帰るのは好きかと聞いて、それはなぜかを聞いて、学童クラブでできない遊びや友達と遊ぶが出てくるのではないか。嫌いの場合は、一人で留守番をするのが怖いという理由がみえてくるのではないか。

委員： 子どもアンケート3番、回答を自由記述にしてはどうか。おやつが好き嫌いだけでなく、好きなおやつの種類、量が多いのかなど様々な回答を得られる。

委員長： 最後に1つ、障害のあるお子さんや親御さんにヒアリングをしてはどうか。本日の検討委員会でいただいた意見に関して、これから整理をして検討をお願いしたい。

4 閉会